

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
福島第一原発事故調査に関する小委員会
第24期・第13回 議事録

令和1年10月7日
作成 澤田 隆

1. 日時 令和1年9月27日（金）13：30～15：30
2. 場所 日本学術会議 5-B 会議室
3. 出席者 松岡委員長、白鳥、関村、成合、宮野、矢川、吉田、澤田幹事（越塚、柘植、中村、山本欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事録案
 - 資料2-1 NHK がまとめた判決の内容
 - 資料2-2 新知見の定義について
 - 資料2-3 新知見の定義について（白鳥委員）
 - 資料2-4 地震本部の役割の一考察
 - 資料3-1 提言4報案のとりまとめ方針に関する審議事項
 - 資料3-2 「新知見への対応」として得られた知見を生かすべき反省とはなにか
 - 資料3-3 福島第一原子力発電所事故直前までにおける地震学の知見と防災への反映状況（案）（文献を除外した場合）
 - 資料3-4 福島第一原子力発電所事故直前までにおける地震学の知見と防災への反映状況（案）（文献を取り入れた場合）
 - 資料4-1 提言（案）
 - 資料4-2 コメント一覧
5. 議事
 - 1) 前回議事録の確認（資料1）
 - ◎ コメントが付いたので改訂することとした。
 - 2) 報告書まとめの方向性（資料3-1）の議論
 - ◎ 前回、これまで一般論として普遍的な提言をまとめようとしてきたが、それは難しいので原子力〔安全〕についての提言としてまとめる方が良いのではとの意見が大勢を占め、今回改めて議論することとした。
 - ◎ 議論
 - 原子力だけでは、原子力学会でやればよいと言われ、学術会議としては出せないと言われる。
 - 他分野にも役立つように提言を発信すべき
 - これまでは報告3報を出発点として提言4報案を作成してきたが、根本的な

原子力の反省点を出発点として、普遍化し他分野にも役立つ提言にまとめなおす。

→吉村先生（東大）にも小委員会に加わって戴き提言 4 報案をまとめていく
（関村委員、松岡委員長）

- これまで学術会議が発信してきた「知の統合」のキーワードは残すべき。
- 津波だけでなく深層防護にも言及する必要
- 地震・津波・火山の分野とどう協力するか？

3) 新知見に関する議論（資料 2-2, 2-3）

- ◎ 主な論点は下記の通り。
 - 企業等の組織単位で考えるか、コミュニティ（学会等）単位で考えるか？
 - 価値を含めて議論すべきではないか（例：特許）？
 - 新知見は誰が対応すべきか？ 規制側か事業者か？
 - 新知見をどう取り入れるか？
 - **unknown-unknown** がある。
 - **if** を考える謙虚さが必要。

4) 「原子力規制の課題とあるべき姿」（提言案）（資料 5-1）

- ◎ 規制庁と話をするという件は、11月14日に桜田氏を候補として調整中である。

5) 次回 2019年10月23日（水）15:00~17:00

次々回 2019年11月14日（木）13:30~15:00

以上